

国語科学習指導案

科 目	授業学級	授業場所	使用教科書	授業者
古典 B	2 年 1 組（普通科）40名 （男子15名，女子25名）	2 年 1 組	精選古典 B 改訂版 （大修館書店）	川畑 美沙

1 単元（教材）名

日記『更級日記』「あこがれ」

2 生徒の実態と単元設定の理由

対象学級は2年文系習熟度クラスである。学習意欲が高く、授業態度も良好であり、国語へ高い関心を寄せる生徒も少なくない。穏やかな雰囲気の中で学び合う様子や、熱心に板書を写す様子が授業では多く見られる。一方で、古典文法等に関する知識、理解には大きな差があり、授業も知識獲得の場として、受容的な態度に終始している生徒も多々存在する。ゆえに本文の叙述を基にして自らの思考を深めたり、積極的に発言し他者との交流を図ったり、古典作品と自らを照らし合わせ、その想像力を巡らせたりするような「主体的で対話的な深い学び」がなかなか実現できていない。

そこで今回の単元では、あえて一つの答えに収束しない課題、多様なものの見方、考え方を許容する問いを設定することにした。古典教材の理解や解釈に基づきながら、自らの考えを深め、表現する過程を通して、論理的思考のみならず、古典への感性や読み味わう態度を涵養することで、古典作品へ主体的にアプローチをしようとする契機となれば、と考えている。

3 育成を目指す言語能力

- ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。（古典 B 指導事項ウ）
- ・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察すること。（古典 B 指導事項エ）

4 単元の目標

- ・作者の心情を意欲的に理解し、古典への理解、関心を深める。（関心・意欲・態度）
- ・日記文学における『更級日記』の位置や冒頭部分の価値を理解し、古典常識、語句や文法事項等の知識を身につける。（知識・理解）
- ・文章に描かれた作者の心情や考え方を、表現に即して読み取る力を育成する。（読むこと）

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	知識・理解	読むこと
・作者の心情を主体的に読解しようとする意識を持ち、古典への関心を深め、読み味わおうとしている。	・『更級日記』の文学的価値を理解している。 ・古典読解に必要な文法事項等に基づき現代語訳ができている。	・文章の内容を的確に読み取っている。 ・本文の表現に即して、作者の心情等を的確に捉え、自らの考えを深めている。

6 取り上げる言語活動

・古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠に話し合い、級友と考えを共有すること。(古典B 言語活動例ウ)

7 単元の指導計画（全8時間）

時	主な学習内容	評価規準	評価方法
1 2 3	・各自の過去、現在の「あこがれ」について発表し、全体で共有する。(ワークシート①) ・本文を通読する。 ・第一段落の文法事項、敬語等の確認、現代語訳。 ・作者の物語への強い憧れを、本文の表現から読み取る。	・興味・関心・態度 ・知識・理解 ・読む能力	・行動の観察 ・記述の点検
4	・第二段落の文法事項、敬語等の確認、現代語訳。 ・薬師仏への惜別の情を読み取る。	・知識・理解 ・読む能力	・記述の点検
5 6	・同時代の日記文学を調べ、各班で新聞形式にまとめ、その特徴を全体で共有する。(参考資料①)	・興味・関心・態度 ・知識・理解 ・書く能力	・行動の観察 ・記述の点検
7	・『更級日記』の冒頭「あこがれ」が作品全体の中でどのような位置を占めるか、本文中の表現を元に、作者の心情を考察する。(参考資料②) (ワークシート②)	・知識・理解 ・読む能力	・行動の観察 ・記述の点検
8	・前時の振り返りと単元の学習のまとめを行う。(参考資料③)	・興味・関心・態度 ・書く能力	・行動の観察 ・記述の点検

8 本時の実際

(1) 本時の目標

・『更級日記』の冒頭がなぜ「あこがれ」から始まったのか、本文の表現を基に作者の心情を考察する。

(2) 本時の評価規準

関心・意欲・態度	知識・理解	読むこと
・「あこがれ」の部分が作品の冒頭に存在する理由を、主体的に考え、他者と意見を交流し、深く学ぼうと意欲を持っている。	・本文の内容を叙述に即して、的確に理解している。	・作者の心情を、本文の叙述を基に考察している。 ・他者との意見交流を通して、自らの読みを再考し、再度本文を俯瞰することで、課題の解決に迫っている。

(3) 展開

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入	10	・内容や表現を意識しながら, 本文を音読する。 ・前時までの学習を振り返る。 ・『更級日記』の成立と, 晩年, 作者が物語に耽溺した自身を反省する章段 (参考資料②) を読み, 冒頭の「あこがれ」の設定理由について考察する, 本時の目標を確認する。 ・本時の流れを確認する。	・本時の流れについて見通しを持たせ, 意欲的に学習に取り組めるような雰囲気作りを行う。	・行動の観察 (前時までの授業の内容を理解し, 本時へ意欲的に取り組もうとしているか。)
		・『更級日記』の冒頭がなぜ「あこがれ」から始まったのか, 本文の表現を基に作者の心情を考察しよう。		
展開	35	・学習課題について, 自分の考えを付箋にまとめる。〔個人〕 ・グループで各自の意見を発表する。 (ワークシート②) 〔グループ〕 ・黒板に書かれた本文の中で, 自分の意見の基になった表現に磁石を貼る。〔個人〕 ・同じ意見を持った者で集まり, その根拠を確認し, 代表者が発表する。〔グループ〕	・本課題には複数の読みが存在することを提示し, 各自が自信を持って自らの思考を深められるような雰囲気を作る。 ・本文中の表現から判断, 考察することを促す。 ・他者の意見を聞き, メモを取るよう促す。 ・同じ表現に注目しても, その根拠には異なる点があることを理解させる。	・行動の確認 ・記述の点検 (本文の表現から解答の根拠を探し, 的確に表現できているか。) ・記述の点検 (様々な意見について, 簡潔にメモを取ろうとしているか。) ・行動の確認 ・行動の確認 (話し合いの過程を表現しようとしているか。)

		・発表を聞きながら,それぞれの意見とその根拠をメモに取る。(ワークシート②)〔グループ〕 ・グループ活動や全体発表を通して,改めて『更級日記』の冒頭がなぜ「あこがれ」で始まったのか,自らの考えをまとめる。〔個人〕 ・自分の考え方,見方がどのように変化したかを確認する。(ワークシート②)〔個人〕	・「あこがれ」の『更級日記』における価値について,多様な考えがあることを理解させる。 ・個人→グループ→個人の活動を経て,様々な意見を基に自らの考えを醸成させる。	・記述の点検 (様々な意見について,簡潔にメモを取ろうとしているか。) ・行動の確認 ・記述の点検 (学習課題について,考察が深まっているか。また,その変容が表現できているか。)
終末	5	・本時の学習を振り返る。	・意欲的に次時に向かえるような振り返りとする。	・行動の確認